

2016 島根県テニス協会 障がいのある方への開発プログラム事業活動報告

○育成会松江地区成年部(わかすぎ会)いきいきプラザ 7/10 9/11 11/20



○ 出雲市 知的障がい支援施設グループホーム「ふたば園」 さざなみ学園体育館 5/21 7/9 9/17 11/19



○ あったかスクラム法吉 法吉公民館 8/7



○ 特別支援ゆうゆう学童クラブ(母衣小・中央小) 8/17





<p>昨年度の事業からの改善・変更点</p>	<p>障がいの程度及び運動能力、ジュニアに関しては発育状況に関する事前の活動で得た情報をスタッフ全員で共有。安全管理スタッフも常備。各個人対応のサポートスタッフを配置、必要に応じて直接支援を行った。(用具は、より扱いやすいものを準備。ラケットに関しては、軽い21インチ～23インチの物を使用、ボールも弾まない柔らかいレッドボールを使用)集団での行動が苦手な方が途中で活動が出来なくなった場合には、グループから抜けてサポートスタッフが対応し、可能であれば再びグループに入ることが出来るよう支援した。また、活動終了時に必ず、個人が達成感を味わえるよう、それぞれの目標を定めた。</p>
<p>事業結果に対する成果・評価</p>	<p>島根県障がい者スポーツ協会及び障がいのある子をもつ親の会（プチさくらんぼの会・キッズスペースゆうあい）手をつなぐ育成会（わかすぎ会）や特別支援学級活動（雑賀小・母衣小・中央小）あったかスクラム法吉活動など、障がい者支援グループと連携して各活動を定期的に行なった為、参加者により理解が深まり、スタッフとのコミュニケーションが容易となった。このような地道な活動が関係団体により理解を促し、活動の幅が広がったと考える。11/3 林 切祭松江イベントでの子ども達のいきいきとしたラリーやゲームを楽しんでいた笑顔が象徴的であった。何より感想にも頂きましたが、障がいのある方々が運動に対して自信を持てるようになった事も特筆すべき事である。</p>
<p>参加者の声・反応・評価</p>	<p>あったかスクラム法吉お世話人の声 「子どもたち、支援者がテニス活動を通じて（特に障がい者が生まれて初めてプレイでき）楽しくスポーツする喜びを知りました。意欲的に活動できるご指導をとてうれしく思います」 手をつなぐ育成会（わかすぎ会）周藤さんより 「テニスの日を心待ちにしている仲間が多い。徐々に動きがよくなっている。終わると『楽しかった！』と笑顔が！コーチの方々に誉めてもらえるのが、とても嬉しいようです。運動の機会が増えて有り難いです。これからもよろしくお願いします。」 手をつなぐ育成会会長武田さん 「障がいがあると何もできないと思われてた人達が開眼しました。パワーのお陰です、ありがとう」</p>
<p>TENNIS P&S 導入にあたり問題点、悩み。課題など（県協会として）</p>	<p>25年度、松江(東部地区)で活動開始、26年度は出雲(中部地区)で活動を拡大。27年度は浜田・大田(西部地区)へ活動を実施。県内全域への活動拡大に成果を挙げた。中でも東部・中部の活動に至っては指導スタッフも充実しており、活動もそれぞれの地域で定期的に行われるようになり、地域に根ざした活動の兆しが見える。但し、障がいのある方に携わる為の研修が東部でしか行われておらず、西部の指導員育成が課題。松江での研修内容を西部に伝達する事業の必要性を感じる。西部指導者も今事業には興味を抱いており、今後、どのような取り組みで今活動の指導者を育成していくかが課題。その為、財源の確保が絶対条件となる</p>
<p>TENNIS P&S 導入にあたり問題点、悩み。課題など（市協会として）</p>	<p>県主導でのイベント活動が多い、各市協会独自の活動はほとんど見受けられない。市協会には経験値が高い指導者がおらず、今後の研修が必要。また育成するための財源も乏しい。</p>